

令和 4 年度 杉並区

特定の課題に対する調査、意識・実態調査

# 報告書

全ての子どもに

自立・共生・共創の資質・能力を豊かに育む

共同探究者のために

自分で選び決め、浸り、共に生き・生かし合う **学びの構造転換**へ

——同じも違いも混ざり認め合い、委ねて支えて共に探究する

令和 4 年 11 月

杉並区教育委員会 杉並区立済美教育センター



令和 4 年度 杉並区

特定の課題に対する調査、意識・実態調査

# 報告書

全ての子どもに

自立・共生・共創の資質・能力を豊かに育む

共同探究者のために

自分で選び決め、浸り、共に生き・生かし合う **学びの構造転換**へ

——同じも違いも混ざり認め合い、委ねて支えて共に探究する

令和 4 年 11 月

杉並区教育委員会 杉並区立済美教育センター

## 目 次

杉並区独自の学力等調査について

主な用語の解説

### I 調査の設計と概要

- |   |   |
|---|---|
| 1 調査の設計に係る基本的な考え方                       | 2 |
| (1) 調査の目的                               |   |
| (2) 調査の対象・方式、内容                         |   |
| (3) 学習指導要領に準拠した【系統性】の理解に基づく【連続性】を確保した設問 |   |
| 2 調査結果に基づく学習状況の評価、結果の取扱いと活用             | 4 |
| (1) 学習指導要領に準拠した設問レベルに基づく学習状況の評価         |   |
| (2) 各学習状況の評価の趣旨                         |   |
| (3) 結果の取扱いと活用                           |   |
| 3 調査の概要                                 | 6 |
| (1) 調査期間                                |   |
| (2) 調査を実施した児童・生徒、学校数                    |   |
| (3) 各調査の設問数                             |   |

### II 調査結果の概要

- |                                 |    |
|---------------------------------|----|
| 1 国語科 特定の課題に対する調査               | 14 |
| (1) 5段階の学習状況の評価(学力段階)           |    |
| (2) 学習状況の評価(学力段階)ごとの平均正答率(教科全体) |    |
| (3) 基礎・活用別、観点別、領域別の平均正答率        |    |
| 2 算数・数学科 特定の課題に対する調査            | 16 |
| (1) 5段階の学習状況の評価(学力段階)           |    |
| (2) 学習状況の評価(学力段階)ごとの平均正答率(教科全体) |    |
| (3) 基礎・活用別、観点別、領域別の平均正答率        |    |
| 3 外国語 特定の課題に対する調査               | 18 |
| (1) 5段階の学習状況の評価(学力段階)           |    |
| (2) 学習状況の評価(学力段階)ごとの平均正答率(教科全体) |    |
| (3) 基礎・活用別、観点別、領域別の平均正答率        |    |
| 4 学習・生活についてのアンケート 意識・実態調査       | 20 |
| (1) 自己意識、生活実態に係る観点の平均値          |    |

<b>Ⅲ－１ 国語科 特定の課題に対する調査 教科等別結果</b>		
1	各学年の結果	22
	小学校第6学年及び中学校第3学年	
<b>Ⅲ－２ 算数・数学科 特定の課題に対する調査 教科等別結果</b>		
1	各学年の結果	26
	小学校第6学年及び中学校第3学年	
<b>Ⅲ－３ 外国語 特定の課題に対する調査 教科等別結果</b>		
1	各学年の結果	30
	中学校第3学年	
<b>Ⅳ 学習・生活についてのアンケート 意識・実態調査 結果</b>		
1	観点と質問項目の対応、結果	32
2	学習活動に関する質問項目の結果	36
<b>Ⅴ 資料</b>		
	・調査用紙及び回答用紙、解答	42

# 杉並区独自の学力等調査について

## 1 調査の名称について

「特定の課題に対する調査、意識・実態調査」は、2004(平成 16)年度から実施している杉並区独自の学力等調査である。2011(平成 23)年度には、国、東京都の調査と対象学年の重複を避けるために方式を転換、小学校第 5・6 学年、中学校第 2・3 学年を各校の希望利用とした。加えて、本区に特有の課題を定める内容の比重を増すとともに、測定誤差を考慮した段階評価を実現する企画への移行を開始した。

現名称は、上記に伴い、「学力調査、意識・実態調査」から改めたものである。「特定の課題に対する」とはすなわち、「特有の課題を定める」ことが本旨である。なお、2021(令和 3)年度からは、1 人 1 台専用タブレット端末を活用した CBT による学力調査への移行を見据え、対象学年を小学第 6 学年、中学第 3 学年としている。

## 2 特有の課題について

杉並区に特有の課題を定めるため、「教科等に関する調査」は、全体の 65%程度を「基礎」、35%程度を「活用」に関する設問として企画している。

全ての児童・生徒に、幼児教育を基礎とした義務教育を通じ、つまずきや学び残しを出さず、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、人生 100 年時代において学び続ける力を育む。こうした学校教育の目標に照らした際、どこに本区特有の課題があるのか。その詳細を明らかにし、課題の解決に資するため、本区調査は、以下を主な特徴に備える。

## 3 調査の特徴について

### (1) 内容の特徴

「教科等に関する調査」「意識・実態調査」は、異校種の教員・教育人材による協働を基盤に、学習者が自分で選び決める・探究に浸る・協同して共に生き・生かし合う学びへの構造転換を図るため、各教科等の系統性の理解に基づき、学びや指導の連続性を踏まえて企画している。

### (2) 結果処理の特徴

結果は、第一に、4 段階の設問レベルに基づき、学習指導要領の実現状況を意味する学力段階に処理する。また、調査結果をクロスバブルチャートやヒートマップに処理し、学校に提供している。

### (3) 結果活用の特徴

本調査は、「コミュニケーションツール」である。調査を活用して多様な教育人材の協働を促すため、2014(平成 26)年度に全校悉皆・集合型の報告会を廃止するとともに、各校が単独又は一貫教育の組み合わせグループごとに研修会を実施し、教育委員会は講師依頼に応じる方式に移行した。学校や地域によっては、学校運営協議会や学校支援本部とともに研修会を実施している。

## 主な用語の解説

用語	解説		
内容の領域	学習指導要領が定める各教科等の内容の領域のこと		
学習評価の観点	観点別学習状況評価における評価の観点のこと		
設問レベル (S～C) ※詳細は p. 3, 4	学習指導要領が定める当該の教科等において、調査実施の前学年の目標・内容(事項)に準拠した設問の難易度であり、4段階に分類する。		
	・基礎 C・B は、「基礎的・基本的な知識及び技能」を趣旨とし、全児童・生徒に、幼児教育を基礎とした義務教育を通じ、確実に習得させる(= (準)通過率 100%を目指す)内容の設問		
	・活用 A・S は、「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」を趣旨とし、全児童・生徒に、教科等の本質知に迫りつつより一層の育成を目指す内容の設問		
	活用	活用 S	「自ら活用する能力」に関する設問
	活用 A	「思考力・判断力・表現力」に関する設問	
基礎	基礎 B	主として「基礎的・基本的な技能」に関する設問	
	基礎 C	主として「基礎的・基本的な知識」に関する設問	
学習状況の評定 ／学力段階 ※詳細は p. 3, 4	調査結果を基に評価(評定)した調査実施の前学年の学習指導要領の実現状況＝目標に準拠した段階評価の結果であり、3段階にも概括できる。		
	R5	「発展的な力が身に付いている」状況／段階	3
	R4	「十分定着がみられる」状況／段階	
	R3	「おおむね定着がみられる」状況／段階(最低限の到達目標)	2
	R2	「特定の内容でつまずきがある」状況／段階	1
R1	「学び残しが多い」状況／段階		
通過 (正答)	当該設問の趣旨に対し「満足できる」解答であった場合、その児童・生徒は設問を「通過」とする。	電子データ上の記載 ・通過 = ◎ ・準通過 = ○ ・未通過 = × 解答用紙上の採点 ・通過 = ○ ・準通過 = △ ・未通過 = ✓	個人ごとの指標
準通過 (準正答)	当該設問の趣旨に対し「おおむね満足できる」解答であった場合、その児童・生徒は設問を「準通過」とする。		
未通過 (誤答)	当該設問の趣旨に対し「努力を要する」解答であった場合、その児童・生徒は設問を「未通過」とする。		
正答率	全設問に占める通過及び準通過した設問の合計割合		
(準)通過率	当該集団において当該設問を(準)通過した児童・生徒の割合。特に断りなく「通過率」という場合は、準通過を含めた率	集団ごとの指標	
平均正答率	正答率を当該集団において平均した値		
中央値	当該集団のデータを順に並べた際に中央に位置する値。集団の人数が偶数の場合は、中央2人の平均値を中央値とする。		
標準偏差	個々の値と当該集団の平均値からの離れ具合(距離)から算出される、当該集団のデータの散らばりの度合いを表す値。当該集団において全データが同値の場合、標準偏差は0となる。		
肯定率	当該集団において、肯定的な回答をした児童・生徒の割合		

# I 調査の設計と概要

# 1 調査の設計に係る基本的な考え方

## (1) 調査の目的

ア（調査の内容）全ての杉並区立学校児童・生徒に、幼児教育を基礎とした義務教育を通じ、学び方を本質とした人生と社会の基盤となる学力を確実に育む観点から、①基礎的・基本的な知識及び技能の習得状況、②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成状況、③主体的に学習に取り組む態度や個性を生かした多様な人々との協同に関する自己意識等を把握する。

イ（結果の活用）調査結果は、公教育の持続的な構造転換を実現するための基礎研究の一環として、①児童・生徒が自らの学びを振り返り、成長の糧とすること、②教員が教授・支援・共同探究や評価の行為を省察し、多様な人材との協働や施設・設備の応答性を基盤に個別に選ぶ・探究に浸る・協同して共に生きる系統的で連続的な学びの実現を図ること、③教育行政が行財政施策としての人材と組織、施設・設備等から支援する学びを評価し、実情に応じた学校づくりと学びを通じた共治のまちづくりを支援すること等に活用する。

## (2) 調査の対象・方式、内容

### ア 対象・方式

対象	方式
小学校第6学年児童、中学校第3学年生徒	悉皆

※ 特別支援学校及び小・中学校の特別支援学級在籍の児童・生徒のうち、①下学年の内容などに代替して指導を受けている場合、②知的障害である児童・生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受けている場合は、対象としないことを原則とする。

### イ 内容

名称	内容
特定の課題に対する調査 (教科等に関する調査)	国語科、算数・数学科、外国語 ・学習指導要領に準拠し、当該教科等における①調査実施の前学年の目標・内容(事項)を出題趣旨とし、②本質知に迫る学習活動に即した出題内容と回答形式、採点規準による設問から構成 ※各教科の1単位時間に位置付けて実施
意識・実態調査 (学習・生活についてのアンケート)	自己意識、生活実態、学習状況 ・①【自己効力感】【他者への/からの受容】や【集合的効力感】等の自己意識、②【基本的な生活習慣】による生活実態、③【学び方】【個別/探究/協同の学び】等の学習状況を観点とした自己評価項目から構成 ※学級活動の1単位時間等に位置付けて実施

## (3) 学習指導要領に準拠した【系統性】の理解に基づく【連続性】を確保した設問

## ア 出題趣旨の決定と設問レベルの設定

教科等に関する調査の設問は、第一に、義務教育 9 年間を通じた目標・内容(事項)の【系統性】と学習評価の観点に基づき、出題趣旨と設問レベルを決定する。

基礎 C と B として設定する設問は、100%の(準)通過率を目標とする、つまり、全児童・生徒に確実に習得させる「基礎的・基本的な知識及び技能」を出題趣旨とする。活用 A や S は、全児童・生徒により一層の育成を目指す「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」を出題趣旨とする。

設問レベル		出題趣旨		全設問に占める割合
活用	活用 S	調査実施の 前学年の 目標・内容 (事項)	自ら探究する能力	35%程度
	活用 A		思考力・判断力・表現力	
基礎	基礎 B		主として基礎的・基本的な技能	65%程度
	基礎 C		主として基礎的・基本的な知識	

## イ 出題内容と回答形式、採点規準の設定

第二に、趣旨とレベルを踏まえ、学習指導要領が定める目標・内容(事項)を系統的に実現し、見方・考え方を中核とした学び方を育む【連続性】を確保した学習活動によっておのずと(準)通過できるよう、出題内容と回答形式、採点規準を設定する。

〔(設問の例)中学校第3学年外国語「聞いた話の要点をメモする」設問〕

- 出題趣旨：エ 書くこと(ウ) 聞いたこと・読んだことについてメモをとること  
【思考・判断・表現】
- 設問レベル：活用 S(「自ら活用できる」状況で(準)通過できる設問)
- 出題内容：(リスニング)これから、スピーチを読みます。その後、2つの質問をします。スピーチ文と質問は通して2回読みます。〔中略〕スピーチを聞きながら、メモ欄に必要なメモを英語で書きなさい。
- 回答形式：記述
- 採点規準：複合条件(設定複数の条件のうち、満たした条件数で(準)通過を評価)
- 見方・考え方を中核とした学び方を育むコミュニケーション活動の展開例：

学習活動	○指導事項 ☆留意点	学習活動に即した具体的な評価規準【観点】(方法・材料)
3 空港でのアナウンスを聞き、搭乗に必要なことを英語でメモする。 〔以下はメモの視点例〕 ・ゲート ・搭乗の開始時刻 ・出発時刻 等	○聞いたことについて(英語で)メモをとること。 ☆スペリングミスにこだわらず、文の流れに乗ってメモをとるように促す。	・うまく書けないところがあっても、聞いたことを英語でメモし続けようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・聞いたことを英語でメモしている。 【思考・判断・表現】 (観察・メモ)

## 2 調査結果に基づく学習状況の評定、結果の取扱いと活用

### (1) 学習指導要領に準拠した設問レベルに基づく学習状況の評定

教科等に関する調査の結果は、基本統計量として、平均正答率やその標準偏差、(準)通過数分布、設問ごとの(準)通過率を算出するとともに、下表の考え方にのっとり、調査実施の前学年の学習状況を、目標＝学習指導要領に準拠して5段階に評定する(以下、「学習状況の評定」若しくは「学力段階」という。)。これは、「測定結果の10%程度は誤差」という紙面を用いた学力測定的一般性質を踏まえ、尺度設計を「連続」から「順序」へと転換、学力・学習状況を「段階評価」しようとする取組である。

目標に準拠した段階評価の導入により、①義務教育における学びの到達水準を具体的な設問を通して一定程度明らかにできる、②調査結果と実際の学力・学習状況の対応関係に対するアカウントビリティが向上するなどの効果が期待でき、③集団や個に応じた改善方策がより一層明確になる。さらに、④取組の成果や課題を、他集団との比較や競走、すなわち集団に準拠した相対評価によらず目標＝学習指導要領に準拠して絶対的に評価できるようになり、これによって本調査は、「杉並区教育ビジョン2012」が志向する共創のための「コミュニケーションツール」となる。

	活用Sの設問群を(おおむね)通過	R5
	活用Aの設問群を(おおむね)通過	R4
最低限の到達目標⇒	<b>基礎Bの設問群を(おおむね)通過</b>	<b>R3</b>
	基礎Cの設問群を(おおむね)通過	R2
	基礎Cの設問群を(おおむね)通過できない	R1

### (2) 各学習状況の評定の趣旨

学習指導要領の実現状況を意味する5段階の学習状況の評定(学力段階)の趣旨は、小学校段階での3段階の評定に即し概括した場合と合わせ、以下のとおりである。

“R3”は、「最低限の到達目標(水準)」と換言できる。R3の評定基準の算出には基礎CとBの設問を用いており、C・Bの設問は、義務教育9年間で全児童・生徒に確実に習得させる「基礎的・基本的な知識及び技能」を出題趣旨とするからである。

状況段階	評定の趣旨		3段階評定に概括した場合
R5	調査実施の前学年の目標・内容(事項)	発展的な力が身に付いている	3
R4		十分定着がみられる	
<b>R3</b>		<b>おおむね定着がみられる(最低限の到達目標)</b>	<b>2</b>
R2		特定の内容でつまずきがある	1
R1		学び残しが多い	

### (3) 結果の取扱いと活用

#### ア 結果の取扱い

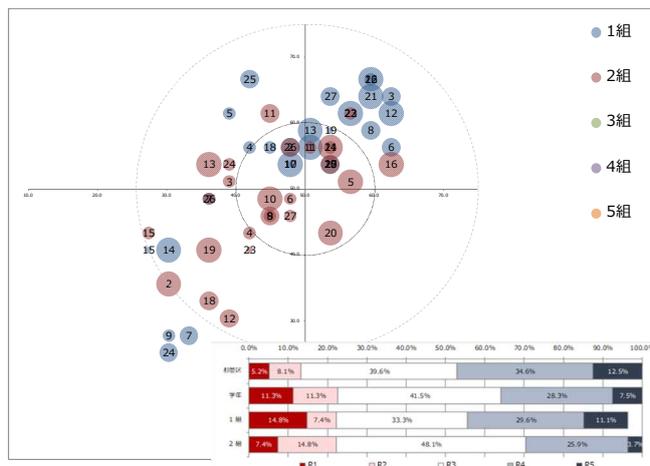
調査結果は、実施教科等が限られていることや、児童・生徒の自己評価によるものであることなどから、あくまで、学力・学習状況の一部分を紙面によって測定したものと捉える必要がある。とりわけ連続尺度上の1単位(得点1点や正答率1%)の差は、測定誤差を考慮すれば、教育的に意味のある学力差でない可能性が高い。

#### イ 結果の活用

結果の活用に当たっては、上述を踏まえ、本調査の主たる役割を「学力・学習状況を目標＝学習指導要領に準拠しておおまかに段階分けする」ことと捉える必要がある。それゆえ最も重視すべき指標は学習状況の評定(学力段階)であり、その結果はさらに、日常的な観点別学習状況をはじめ様々な教育情報と併用することが望ましい。付言すると、本調査の正答率は「参考指標」としてのみ算出しており、連続尺度を仮定し正答率そのものを「代表指標」にする学力調査とは根本的に設計が異なる。

また、調査結果は、クロスバブルチャートやヒートマップに処理したものも合わせて参照し、学年や校種、学校と地域を超えた協働に活用することが期待される。

[クロスバブルチャート：学力分布と意識・実態調査の回答を重ね合せた例]



- 左図は、横軸に「国語科」、縦軸に「算数・数学科」の標準化得点を取り、「学校の先生は自分のことを認めてくれていると思う」項目に肯定的に回答している個ほどバブルサイズが大きくなるよう処理した「クロスバブルチャート」である。
- バブル内の数値は一人一人の「出席番号」を表しており、各軸の教科等とバブルサイズに表す質問項目は校務情報端末上で動的に選択できるようにしてある。
- 直観的に、否定的な回答をしている個が中下位層に分布している様子が分かる。学力段階(右下)を合わせて参照することで、学年や学級、個々の状況の理解が促進する。

[ヒートマップ：児童・生徒数を指標に学校規模(小学校)を表現した例]



- 左図は、児童・生徒数を指標に「学校規模(小学校)」を表現した「ヒートマップ」である。杉並区の地図を背景とし、相対的に規模が大きい/小さい学校が立地する地域ほど色が赤く/青くなるよう処理してある。
- 「特定の課題に対する調査(教科等に関する調査)」のみならず、「意識・実態調査(学習・生活についてのアンケート)」の結果もその多くをヒートマップ化して学校に提供している。
- 活用の際には、赤/青の色付けが杉並区立学校における相対的な高/低であることを踏まえるとともに、様々な要因を「学校・地域の強み」に読み替える視点をもち、立場を超えたコミュニケーションのツールとなることが期待される。

### 3 調査の概要

(1) 調査期間

令和4年5月10日(火)から12日(木)までの1日を、各学校が選択して実施

(2) 調査を実施した児童・生徒数、学校数

	小学校			
	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
児童・生徒	対象学年としない			3,362人
学校	対象学年としない			40校

(3) 各調査の設問数

ア 特定の課題に対する(教科等に関する調査)

①国語科 ※全体に占める設問割合を( )内に示してある。

分類			小学校			
			第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
全体			対象学年としない			18
基礎 活用	基礎	基礎C	対象学年としない			5(27.8%)
		基礎B	対象学年としない			6(33.3%)
	活用	活用A	対象学年としない			4(22.2%)
		活用S	対象学年としない			3(16.7%)
観点	知識・技能		対象学年としない			3(16.7%)
	思考・判断・表現		対象学年としない			15(83.3%)
	主体的に学習に取り組む態度		対象学年としない			
領域	言語事項		対象学年としない			3(16.7%)
	話すこと・聞くこと		対象学年としない			2(11.1%)
	書くこと		対象学年としない			3(16.7%)
	読むこと		対象学年としない			10(55.6%)

中学校			
第1学年	第2学年	第3学年	
対象学年としない		2,056人	児童・生徒
		23校	学校

中学校			分類		
第1学年	第2学年	第3学年			
対象学年 としない		16	全体		
		4(25.0%)	基礎C	基礎	基礎 活用
		5(31.3%)	基礎B		
		4(25.0%)	活用A	活用	
		3(18.8%)	活用S		
		2(12.5%)	知識・技能		観点
		14(87.5%)	思考・判断・表現		
			主体的に学習に取り組む態度		
		2(12.5%)	言語事項		領域
		2(12.5%)	話すこと・聞くこと		
		3(18.8%)	書くこと		
		9(56.3%)	読むこと		

②算数・数学科 ※全体に占める設問割合を（ ）内に示してある。

分類			小学校			
			第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
全体						25
基礎 活用	基礎	基礎 C				7 (28.0%)
		基礎 B				10 (40.0%)
	活用	活用 A				6 (24.0%)
		活用 S				2 ( 8.0%)
観点	知識・技能		対象学年 としない			15 (60.0%)
	思考・判断・表現					10 (40.0%)
	主体的に学習に取り組む態度					
領域	A 数と計算					10 (40.0%)
	B 図形					9 (36.0%)
	C 変化と関係					4 (16.0%)
	D データの活用					2 ( 8.0%)

③外国語 ※全体に占める設問割合を（ ）内に示してある。

分類			小学校			
			第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
全体						
基礎 活用	基礎	基礎 C				
		基礎 B				
	活用	活用 A				
		活用 S				
観点	知識・技能		対象学年 としない			
	思考・判断・表現					
	主体的に学習に取り組む態度					
領域						

中学校			分類		
第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年			
対象学年 としない		25	全体		
		6 (24.0%)	基礎 C	基礎	基礎 活用
		11 (44.0%)	基礎 B		
		6 (24.0%)	活用 A	活用	
		2 ( 8.0%)	活用 S		
		16 (64.0%)	知識・技能		観点
		9 (36.0%)	思考・判断・表現		
			主体的に学習に取り組む態度		
		11 (44.0%)	数と式 A		領域
		7 (28.0%)	図形 B		
		4 (16.0%)	関数 C		
		3 (12.0%)	データの活用 D		

中学校			分類		
第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年			
対象学年 としない		25	全体		
		6 (24.0%)	基礎 C	基礎	基礎 活用
		11 (44.0%)	基礎 B		
		5 (20.0%)	活用 A	活用	
		3 (12.0%)	活用 S		
		17 (68.0%)	知識・技能		観点
		8 (32.0%)	思考・判断・表現		
			主体的に学習に取り組む態度		
		5 (20.0%)	聞くこと ア		領域
		11 (44.0%)	話すこと イ		
		5 (20.0%)	読むこと ウ		
		4 (16.0%)	書くこと エ		

イ 意識・実態調査（学習・生活についてのアンケート）

① 自己意識・生活実態

領域	観点	設問数
自己意識	学校生活の充実度	4
	自己効力感(自由の感度)	6
	他者への受容(相互承認の感度①)	3
	他者からの受容(相互承認の感度②)	4
	自己の受容(自己承認の感度)(自己肯定感)	3
	探究の情動(内発的な学習意欲)	3
	主体的な学び(内発的な学習意欲)	4
	時間的展望	3
	道徳的実践力	5
	生命尊重体験	3
	国際社会への関心・関わり	3
	住んでいる地域への関心・関わり	4
集合的(社会)効力感 (相互承認(触発)の感度③)	4 ※全て複数領域に該当する設問	
生活実態	基本的な生活習慣	4
計		53

## ②学習状況、部活動への所属状況

観点		設問数
学習 状況	学習成果の実感	2
	学び方(学習方略一般)	6
	個別の学び(学びの個別化)	7
	探究の学び(学びの探究化)	3
	協同の学び(学びの協同化)	7
	読書冊数	1
	学習時間	4 ※平日/休日、自己/塾・家庭教師等
	学びの構造転換(国語科)	5
	学びの構造転換(算数・数学科)	5
	学びの構造転換(理科)	5
	学びの構造転換(外国語)	5
	コミュニケーション活動	1 ※小学校第6学年 4 ※中学校第3学年
	ICT利活用	6
	部活動への所属状況	1 ※中学校第3学年のみ
計	58～61	

③ 「杉並区教育ビジョン 2012」が掲げる「目指す人間像」「育みたい力」と  
自己意識・生活実態領域の観点の関連

杉並区教育ビジョン 2012		意識・実態調査
目指す人間像	育みたい力	自己意識・生活実態領域の観点
夢に向かい、志をもって 自らの道を拓く人	1 自分のもち味を見付け、 自ら学び、考え、判断し、 行動する力	主体的な学び(4) (内発的な学習意欲) 探究の情動(3) (内発的な学習意欲) ☆自己効力感(6) (自由の感度)
	2 変化の時代を捉え、 たくましく生きる 心と体の力	☆自己の受容(3) (自己承認の感度)(自己肯定感) 時間的展望(3) 基本的な生活習慣(4)
	5 持続可能な社会を目指し、 次代を共に支えていく力	国際社会への関心・関わり(3) 住んでいる地域への関心・関わり(4) ☆集合的(社会)効力感(4) (相互承認(触発)の感度③)
地域・社会・自然と共に生きる人 「かかわり」を大切にし、	3 豊かな感性をもち、 感動を分かち合う力	生命尊重体験(3) ☆他者への受容(3) (相互承認の感度①)
	4 他者の存在を認め、 多様な関係を結ぶ力	☆他者からの受容(4) (相互承認の感度②) 道徳的実践力(5)

学校生活  
の充実度  
(4)

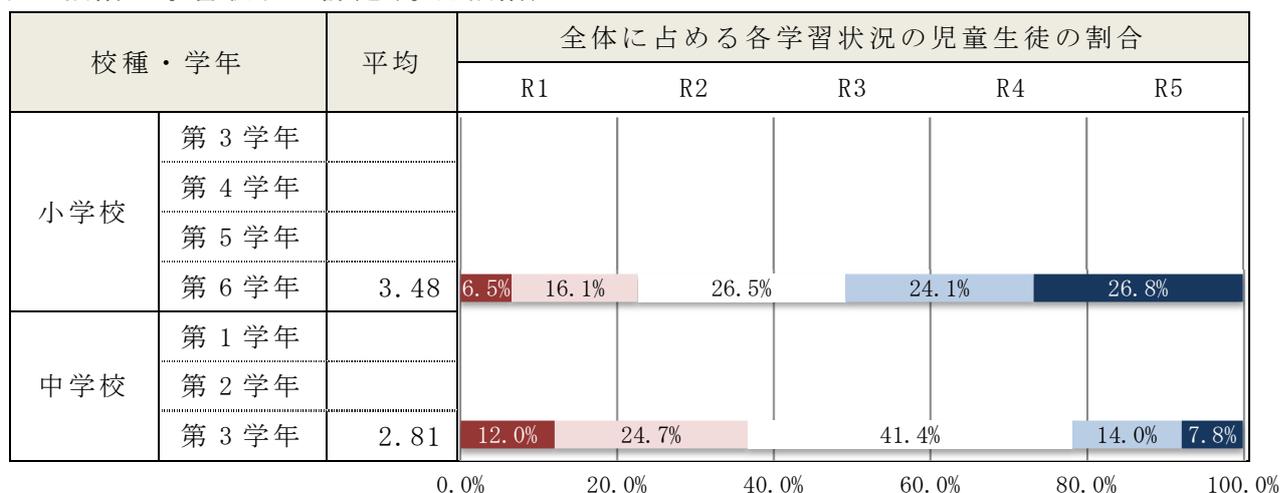
※ ( ) 内の数値は、各領域に含まれる質問項目数を示す。

※ ☆ は、各目指す人間像・育みたい力において中核となる概念を示す。

## Ⅱ 調査結果の概要

# 1 国語科 特定の課題に対する調査

## (1) 5段階の学習状況の評定(学力段階)



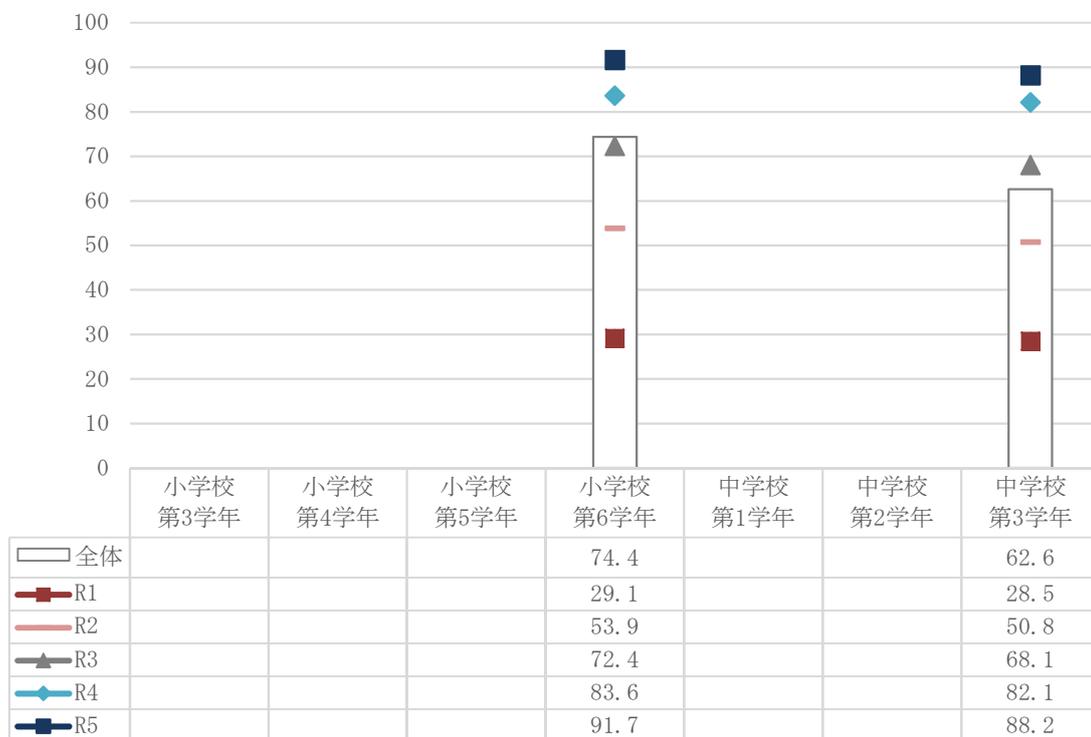
※学習指導要領に準拠した調査実施の前学年の学習状況の評定(学力段階)  
 R5 発展的な力が身に付いている      R4 十分定着がみられる  
 R3 おおむね定着がみられる(最低限の到達目標)  
 R2 特定の内容でつまずきがある      R1 学び残しが多い

## (3) 基礎・活用別、観点別、領域別の平均正答率 ※( )内は標準偏差を示す。

分類			小学校				
			第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	
全体						74.4(18.3)	
基礎 活用	基礎	基礎 C・B				83.0	
	活用	活用 A・S				61.0	
観点	知識・技能					92.2	
	思考・判断・表現					70.9	
	主体的に学習に取り組む態度		対象学年としない				
領域	言語事項					92.2	
	話すこと・聞くこと					86.0	
	書くこと					59.5	
	読むこと					71.3	

※平均正答率や標準偏差の単純な比較は、難易度の高低や正答率を代表指標としない調査の特性(p.5)上推奨しない。

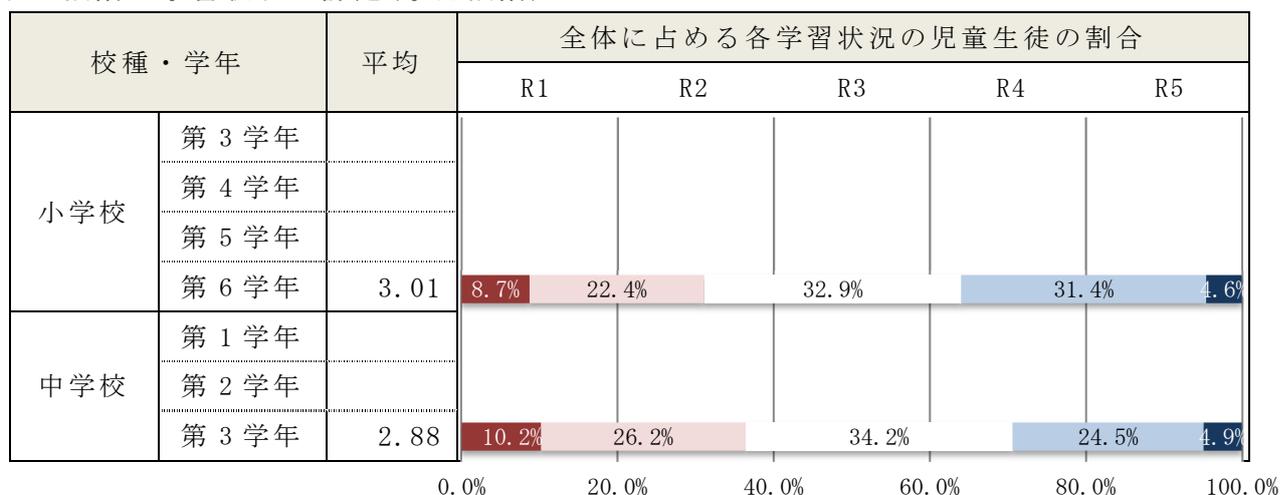
(2) 学習状況の評定(学力段階)ごとの平均正答率(教科全体)



中学校			分類		
第1学年	第2学年	第3学年			
対象学年としない		62.6(18.1)	全体		
		74.2	基礎 C・B	基礎	基礎
		47.7	活用 A・S	活用	活用
		75.1	知識・技能		観点
		60.8	思考・判断・表現		
			主体的に学習に取り組む態度		
		75.1	言語事項		領域
		81.0	話すこと・聞くこと		
		50.0	書くこと		
		59.9	読むこと		

## 2 算数・数学科 特定の課題に対する調査

### (1) 5段階の学習状況の評定(学力段階)



※学習指導要領に準拠した調査実施の前学年の学習状況の評定(学力段階)

R5 発展的な力が身に付いている      R4 十分定着がみられる

R3 おおむね定着がみられる(最低限の到達目標)

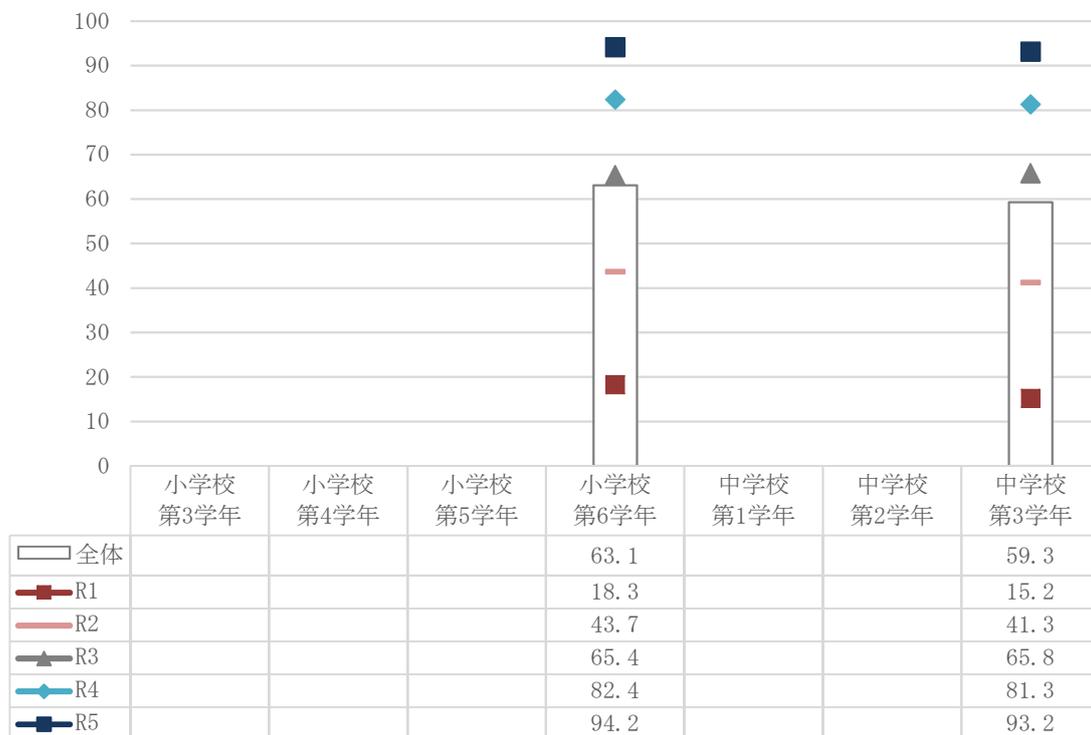
R2 特定の内容でつまずきがある      R1 学び残しが多い

### (3) 基礎・活用別、観点別、領域別の平均正答率 ※( )内は標準偏差を示す。

分類			小学校			
			第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
全体						63.1(21.7)
基礎 活用	基礎	基礎 C・B				74.7
	活用	活用 A・S				38.4
観点	知識・技能					75.9
	思考・判断・表現					43.8
	主体的に学習に取り組む態度		対象学年としない			
領域	A 数と計算					67.6
	B 図形					60.9
	C 変化と関係					49.5
	D データの活用					77.2

※平均正答率や標準偏差の単純な比較は、難易度の高低や正答率を代表指標としない調査の特性(p.5)上推奨しない。

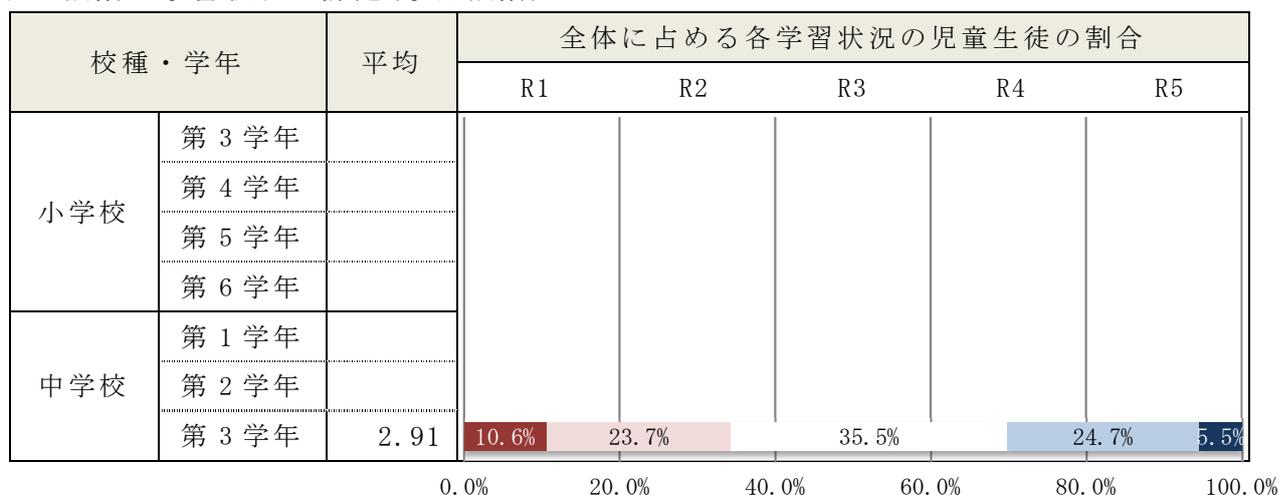
(2) 学習状況の評定(学力段階)ごとの平均正答率(教科全体)



中学校		分類			
第1学年	第2学年				
対象学年としない		59.3 (22.8)	全体		
		72.4	基礎 C・B	基礎	基礎
		31.7	活用 A・S	活用	活用
		72.8	知識・技能		観点
		35.5	思考・判断・表現		
			主体的に学習に取り組む態度		
		67.4	数と式 A		領域
		50.5	図形 B		
		51.0	関数 C		
		61.6	データの活用 D		

### 3 外国語 特定の課題に対する調査

(1) 5段階の学習状況の評定(学力段階)



※学習指導要領に準拠した調査実施の前学年の学習状況の評定(学力段階)

R5 発展的な力が身に付いている R4 十分定着がみられる

R3 おおむね定着がみられる(最低限の到達目標)

R2 特定の内容でつまずきがある R1 学び残しが多い

(3) 基礎・活用別、観点別、領域別の平均正答率 ※( )内は標準偏差を示す。

分類			小学校			
			第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
全体						
基礎 活用	基礎	基礎 C・B				
	活用	活用 A・S				
観点	知識・技能					
	思考・判断・表現					
	主体的に学習に取り組む態度					
領域	ア 聞くこと					
	イ 話すこと					
	ウ 読むこと					
	エ 書くこと					

対象学年としない

※平均正答率や標準偏差の単純な比較は、難易度の高低や正答率を代表指標としない調査の特性(p.5)上推奨しない。

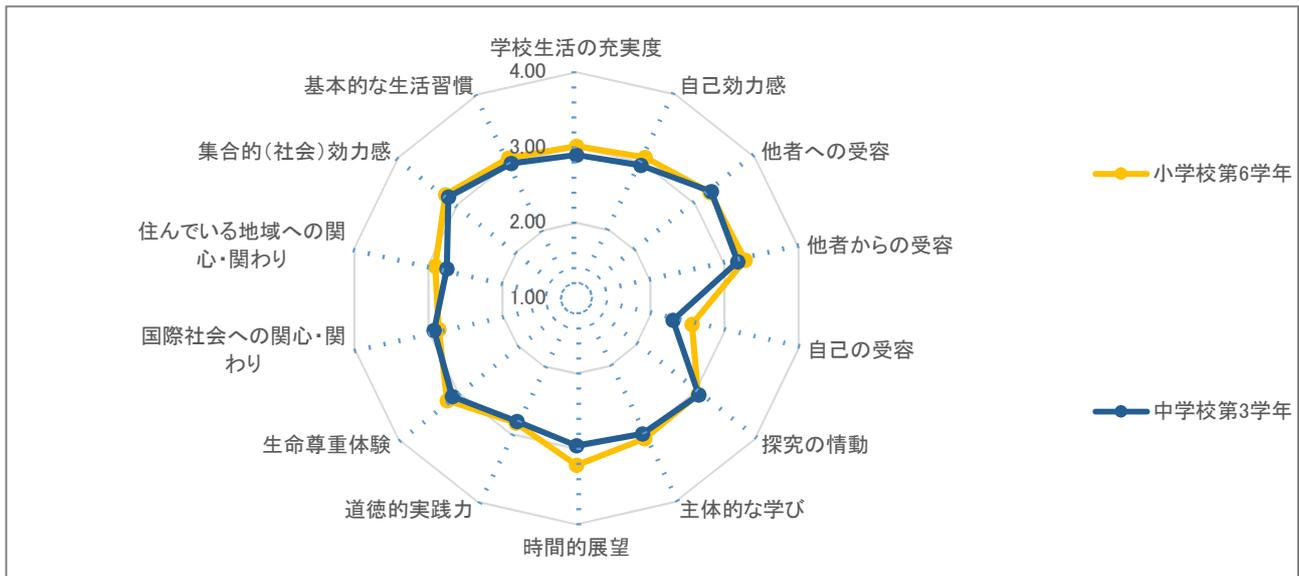
(2) 学習状況の評定(学力段階)ごとの平均正答率(教科等全体)



中学校		分類
第1学年	第2学年	
対象学年としない		54.4 全体
		59.7 基礎 C・B
		43.1 活用 A・S
		59.7 知識・技能
		43.1 思考・判断・表現
		主体的に学習に取り組む態度
		61.8 聞くこと ア
		56.1 話すこと イ
		61.0 読むこと ウ
		32.4 書くこと エ

## 4 学習・生活についてのアンケート 意識・実態調査

(1) 自己意識、生活実態に係る観点の平均値



観点		小学校				中学校			
		第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	第1学年	第2学年	第3学年	
自己意識	学校生活の充実度	対象学年 としない				3.02	対象学年 としない		2.90
	自己効力感 (自由の感度)					3.08			2.96
	他者への受容 (相互承認の感度①)					3.25			3.27
	他者からの受容 (相互承認の感度②)					3.28			3.18
	自己の受容 (自己承認の感度)(自己肯定感)					2.56			2.30
	探究の情動 (内発的な学習意欲)					3.05			3.06
	主体的な学び (内発的な学習意欲)					3.07			3.00
	時間的展望					3.22			2.96
	道徳的実践力					2.84			2.81
	生命尊重体験					3.18			3.09
	国際社会への 関心・関わり					2.86			2.93
	住んでいる地域への 関心・関わり					2.91			2.75
集会的(社会)効力感 (相互承認(触発)の感度③)	3.21	3.16							
生活実態					3.07			2.99	

※回答を肯定=4~否定=1と換算し、各領域に含まれる項目の回答結果を平均した値

## Ⅲ—1 国語科

# 特定の課題に対する調査 教科等別結果



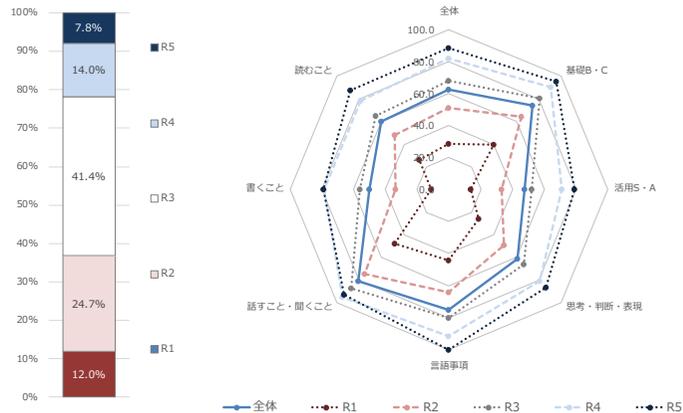
中学校第3学年

設問番号	連番	大問	小問	学習指導要領に準拠した趣旨	出題	内容	形式	解答形式	設問レベル	学習評価の観点					指導内容の領域					結果								
										1	2	3	4	5	A	B	C	D	E	(準) 達成率 (%)					無答率 (%)			
										知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	言語事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	全体	R1	R2	R3	R4	R5	全体	R1	R2	R3	R4	R5
1	1	1	1	論理の展開に注意して聞くこと	読の要点を捉えたり意見に対する相換の適切さを判断したりして聞く	読の要点を捉えたり意見に対する相換の適切さを判断したりして聞く	選択	通常	基礎B	●	■						70.8	37.7	59.6	77.6	90.6	86.3	0.4	2.8	0.0	0.1	0.0	0.0
2	1	2	1	話し手の考えを比較しながら自分の考えをまとめとめること	話し手の考えと比較し、賛成か反対か、納得できるかできないかを判断して自分の考えをまとめとめる	話し手の考えと比較し、賛成か反対か、納得できるかできないかを判断して自分の考えをまとめとめる	自由記述	複合条件	活用A	●	■						91.1	58.3	90.0	96.7	99.7	100.0	5.8	30.0	5.3	2.1	0.0	0.0
3	2	1	1	類義語と対義語、同義異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解すること	文脈に沿って語句の意味を理解し、正しい漢字や熟語を選ぶ	文脈に沿って語句の意味を理解し、正しい漢字や熟語を選ぶ	選択	通常	基礎C	●	■						81.3	50.6	73.0	86.3	95.9	100.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	2	2	2	単語の活用について理解すること	単語の類別と関連付けながら自立読み、付属語を押さえる	単語の類別と関連付けながら自立読み、付属語を押さえる	選択	通常	基礎C	●	■						68.9	38.1	55.1	74.3	85.8	100.0	0.5	3.2	0.2	0.1	0.0	0.0
5	3	1	1	抽象的な概念を表す語句の意味を推すこと	文章の中でどのように使用されているかを考える	文章の中でどのように使用されているかを考える	選択	通常	基礎C	●	■						87.8	55.5	85.4	92.8	97.9	100.0	0.6	4.9	0.0	0.0	0.0	0.0
6	3	2	2	文章全体と部分との関係に注意すること	各段落が文章全体の中で果たす役割について捉える	各段落が文章全体の中で果たす役割について捉える	選択	通常	基礎B	●	■						80.6	45.7	72.2	88.6	94.4	93.8	0.7	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0
7	3	3	3	主張と裏手の主張との関係をつかむこと	具体例と裏手の主張との関係を考えて内容を把握する	具体例と裏手の主張との関係を考えて内容を把握する	選択	通常	基礎B	●	■						65.7	27.1	48.6	74.1	90.9	89.4	1.1	7.3	0.6	0.1	0.0	0.0
8	3	4	4	知識や経験と結び付けて考えを広げたり深めたりすること	知識や経験と結び付けて理解したことや考えたことを具体的に明確にする	知識や経験と結び付けて理解したことや考えたことを具体的に明確にする	自由記述	複合条件	活用A	●	■						28.0	5.3	11.8	28.4	53.7	65.8	15.3	49.4	21.5	8.8	2.1	1.2
9	3	5	5	文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること	表現が文章の内容を伝える上でどのように働いているかを考える	表現が文章の内容を伝える上でどのように働いているかを考える	自由記述	複合条件	活用S	●	■						45.2	4.9	26.0	54.1	68.3	79.5	17.8	58.3	27.2	8.0	3.8	3.1
10	4	1	1	登場人物の行動の仕方をつかむこと	登場人物の人物像の捉え方を考える	登場人物の人物像の捉え方を考える	選択	通常	基礎C	●	■						61.0	34.8	55.1	61.8	69.3	100.0	1.1	8.9	0.2	0.0	0.0	0.0
11	4	2	2	登場人物の行動の意味をつかむこと	登場人物の言葉や意味が語の展開などにどのように関わっているかを考える	登場人物の言葉や意味が語の展開などにどのように関わっているかを考える	選択	通常	基礎C	●	■						87.3	47.8	82.1	95.5	99.0	100.0	1.7	11.3	1.0	0.2	0.0	0.0
12	4	3	3	知識や経験と結び付けて考えを広げたり深めたりすること	知識や経験と結び付けて理解したことや考えたことを具体的に明確にする	知識や経験と結び付けて理解したことや考えたことを具体的に明確にする	自由記述	複合条件	活用A	●	■						33.1	4.9	16.7	34.5	62.0	68.3	23.2	59.5	30.3	17.6	7.0	3.7
13	4	4	4	表現の効果について考えること	表現が文章の内容を印象付ける上でどのように働いているかを考える	表現が文章の内容を印象付ける上でどのように働いているかを考える	自由記述	複合条件	活用S	●	■						50.9	11.3	35.6	57.8	69.0	90.7	20.3	61.5	27.2	12.6	5.9	1.2
14	5	1	1	伝えたいことが分かりやすく伝わるように文章の構成や展開を工夫すること	基本的な文章の構成や展開などに即して考える	基本的な文章の構成や展開などに即して考える	選択	通常	基礎B	●	■						64.6	22.3	48.6	73.0	90.9	88.2	3.7	15.4	3.3	2.2	0.3	0.6
15	5	2	2	段落相互の関係を明確にすること	段落相互の関係を即した接続詞を選び、その理由を書く	段落相互の関係を即した接続詞を選び、その理由を書く	記述	複合条件	活用A	●	■						54.3	7.3	34.4	61.5	87.8	91.9	7.4	38.5	7.1	2.4	0.3	0.0
16	5	3	3	表現の工夫とその効果などについて助言すること	助言する内容を理由とともに書く	助言する内容を理由とともに書く	自由記述	複合条件	活用S	●	■						31.3	4.0	18.3	33.4	57.1	56.5	23.4	69.6	32.5	14.7	4.9	3.1

■対象教科、校種・学年、出題範囲、対応教科書

■学習状況の評定（学力段階）、段階別の平均正答率（%）

教科等	国語科
校種・学年	中学校第3学年
出題範囲	中学校第2学年
対応教科書	光村図書出版



設問	数	%	平均正答率 (%)						
			全体	R1	R2	R3	R4	R5	
16	—	—	62.6	28.5	50.8	68.1	82.1	88.2	
基礎/活用別	9	56.3	74.2	39.9	64.4	80.4	90.7	95.3	
	7	43.8	47.7	13.7	33.3	52.3	71.1	79.0	
	観点別	1	12.5	75.1	44.3	64.1	80.3	91.8	100.0
		2	12.5	60.8	26.2	48.9	66.4	80.8	86.5
		3	18.8						
4									
5									
領域別	2	12.5	75.1	44.3	64.1	80.3	91.8	100.0	
	2	12.5	81.0	48.0	74.8	87.1	95.1	93.2	
	3	18.8	50.0	11.2	33.8	55.9	78.6	78.9	
	9	56.3	59.9	26.4	48.2	65.3	78.3	87.5	
	9	56.3							

レベル	活用	S		3	
		1	2	3	4
基礎	A	4	25.0		
	B	5	31.3		
	C	4	25.0		
出題	選択	9	56.3		
	記述	1	6.3		
	自由記述	6	37.5		
	通常	9	56.3		
解答	完全	0	0.0		
	複合条件	7	43.8		

学習状況の評定（学力段階）				
R1	R2	R3	R4	R5
12.0%	24.7%	41.4%	14.0%	7.8%



## Ⅲ—2 算数・数学科

### 特定の課題に対する調査 教科等別結果

# 1 各学年の結果

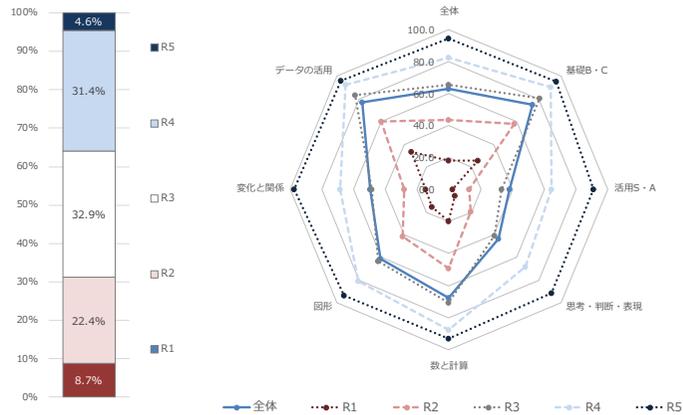
## 小学校第6学年

設問番号	出題	内容	形式	解答形式	設問レベル	学習評価の観点					指導内容の領域					結果									
						1	2	3	4	5	A	B	C	D	E	(準)連測率 (%)					無答率 (%)				
連番	大問	小問				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	数と計算	図形	変化と関係	データの活用	全体	R1	R2	R3	R4	R5	全体	R1	R2	R3	R4	R5	
1	1	1	異分母分数の減法の計算ができること	2/2/3-1/4/5の計算をする	記述 通常	基礎C	●						74.8	14.6	55.3	83.1	93.5	98.1	5.5	36.1	9.5	0.6	0.0	0.0	
2	1	2	小数の乗法の計算ができること	2.94×0.75の乗算をする	記述 通常	基礎B	●						71.7	26.5	56.0	77.0	87.0	92.9	0.6	6.1	0.3	0.0	0.1	0.0	
3	1	3	小数の減法の計算ができること	12.4-2.480の計算をする	記述 通常	基礎B	●						75.9	15.3	56.8	85.9	93.6	91.6	6.2	39.1	10.7	0.7	0.3	0.0	
4	2	1	平行四辺形の面積の計算による求め方について理解すること	平行四辺形の面積の公式を答える	記述 通常	基礎C	●						73.2	23.8	54.8	78.4	92.2	89.6	1.6	16.7	0.5	0.2	0.0	0.0	
5	2	2	ある数の10倍、1/10の大きさの数を、小数点の位置を移してつくること	6.9を10倍、1/10にした数を求める	記述 通常	基礎C	●						95.1	58.5	96.3	99.2	99.5	100.0	1.2	12.6	0.4	0.0	0.1	0.0	
6	3	1	分数の相等及び大小について知り、大小を比べること	2/3, 2/5, 2/7, 2/9の中で一番大きい数を求める	選択 通常	基礎C	●						83.6	27.2	73.3	90.4	97.3	100.0	1.8	8.5	2.4	1.2	0.4	0.0	
7	3	2	簡単な場合について、比例の関係があることを知る	1mの重さが10gの針金の長さを○m、重さを△gとしてその比例の関係を式に表す	選択 通常	基礎C	●						89.4	55.1	83.8	94.1	96.7	99.4	1.4	13.9	0.7	0.0	0.0	0.0	
8	3	3	台形の面積の計算による求め方について理解すること	上底が5cm、下底が9cm、高さが4cmの台形の面積を測定して求める	記述 通常	基礎B	●						68.0	6.5	42.2	76.4	90.2	98.7	5.5	39.5	7.6	1.0	0.0	0.0	
9	3	4	三角形について簡単な性質を理解すること	三角形の1つの角の大きさを計算で求める	記述 通常	基礎C	●						87.8	34.4	83.3	93.7	98.0	99.4	2.9	26.5	2.3	0.2	0.0	0.0	
10	4	1	乗数が小数である場合の小数の乗法の意味について理解すること	2.6×1.8の式になる問題を見付ける	選択 通常	基礎B	●						81.4	37.8	68.2	87.4	94.1	98.7	1.4	12.9	0.8	0.1	0.1	0.0	
11	4	2	小数の乗法の計算の仕方を考えること	5.2×1.7の計算の仕方を説明する式に数を当てはめる	記述 通常	基礎B	●						60.3	6.5	36.1	67.1	80.7	94.2	2.0	20.4	0.9	0.0	0.0	0.0	
12	4	3	円と関連させて正多角形の基本的な性質を見いだすこと	時計の文字盤の2時間ごとの目盛りを結んでできる正多角形を考える	記述 通常	基礎B	●	●					70.9	24.8	54.9	76.8	86.3	88.3	3.5	31.3	3.1	0.4	0.0	0.0	
13	5	1	作って変わる二つの数量を見だし、変化の規則性から問題を解決すること	ストローを使って正方形を横につなげた形をつくり、正方形を30こ作るときのストローの本数を求める	記述 通常	基礎B	●						54.3	2.4	19.9	58.1	83.4	95.5	3.0	18.0	4.1	1.1	0.5	0.0	
14	5	2	基本的な角柱、円柱について知る	角柱と円柱を判別する	選択 通常	基礎B	●						50.9	5.1	25.6	52.6	74.1	90.3	1.0	10.9	0.4	0.0	0.0	0.0	
15	6	1	棒グラフの特徴を知ること	棒グラフの名前を答える	選択 通常	基礎C	●						88.8	57.1	86.9	92.4	94.3	95.5	1.3	12.9	0.8	0.0	0.0	0.0	
16	6	2	円グラフの特徴と使い方を理解すること	円グラフを読み取り、グラフが表していることを見付ける	選択 通常	基礎B	●						65.5	9.9	33.6	74.0	90.3	97.4	2.7	15.6	3.4	1.4	0.3	0.0	
17	7	1	円と関連させて正多角形の基本的な性質を知る	円とコンパス、三角定規を使って正六角形をかく	記述 通常	基礎B	●						78.0	32.7	62.3	84.4	92.3	96.8	7.8	30.3	11.4	5.0	2.9	0.6	
18	7	2	立方体、直方体の体積の計算による求め方を工夫すること	複合図形の体積を求める式を考える	選択 通常	活用A	●	●					56.7	1.7	21.9	57.8	90.0	95.5	6.1	33.7	11.5	1.7	0.1	0.0	
19	7	3	図形を構成要素に着目し、図形の性質を見いだすこと	立方体の展開図を完成させるために決められた5個の正方形に6個目の正方形の付け方を見付ける	記述 通常	活用A	●	●					48.7	6.5	24.3	41.7	80.0	84.4	8.0	42.9	13.1	3.4	0.5	0.0	
20	8	1	小数の減法と小数の乗法を用いた問題を考えること	0.2, 0.4, 0.6, 0.8の4枚のカードから3枚を選んで、□×(□-□)の答えが1番大きくなるようにする	記述 通常	活用A	●	●					44.2	7.8	21.4	37.3	72.8	79.9	4.2	23.5	6.8	1.7	0.1	0.6	
21	8	2	異分母分数の減法の計算の仕方を考えること	1/○-1/△=1/□の○、△、□にあてはまる数を1~10の整数の中から選ぶ	記述 通常	活用A	●	●					40.4	1.0	6.6	31.6	76.9	94.2	21.7	49.0	34.7	22.4	6.9	1.3	
22	8	3	観点を決めて整数を判別する仕方を考えること	7×7と等しくなる奇数の加法の式と1+3+7+9+11+13+15+17+19と等しくなる乗法の式を求める	記述 通常	活用A	●	●					48.5	2.4	20.7	45.8	79.6	79.9	9.7	41.8	17.9	5.9	0.2	0.0	
23	8	4	数量の関係に着目し、ある二つの数量の関係と別の数量の関係との比べ方を考察すること	割合の情報をから、一番安い値段を見付ける	記述 通常	活用A	●	●					46.2	0.3	7.7	41.1	84.6	95.5	14.6	40.5	29.6	12.0	1.4	0.0	
24	9		図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、節度を立てて考えること	本立てを作るときに最も短くて板の切り方を考える	記述 通常	活用S	●	●					14.4	0.0	0.5	6.5	24.1	100.0	12.3	40.1	22.3	9.3	2.5	0.0	
25	10		数量の関係に着目し、ある二つの数量の関係と別の数量の関係との比べ方を考察すること	AからBに500円減すと等しくなり、BからAに500円減すとAがBの1.2倍になるAの所持金を求める	記述 通常	活用S	●	●					7.9	0.0	0.3	1.7	8.6	100.0	29.9	49.7	39.3	30.0	21.8	0.0	

■対象教科、校種・学年、出題範囲、対応教科書

■学習状況の判定（学力段階）、段階別の平均正答率（%）

教科等	算数・数学科
校種・学年	小学校第6学年
出題範囲	小学校第5学年
対応教科書	教育出版



設問	数	%	平均正答率 (%)					
			全体	R1	R2	R3	R4	R5
25	—	—	63.1	18.3	43.7	65.4	82.4	94.2
17	68.0	—	74.7	25.8	58.2	80.6	90.8	95.6
8	32.0	—	38.4	2.5	12.9	32.9	64.6	91.2
15	60.0	—	75.9	27.1	59.9	81.8	91.8	96.2
10	40.0	—	43.8	5.1	19.4	40.7	68.4	91.2
10	40.0	—	67.6	19.8	49.1	70.5	87.5	92.9
9	36.0	—	60.9	15.0	41.1	63.1	80.8	93.7
4	16.0	—	49.5	14.5	27.9	48.8	68.3	97.6
2	8.0	—	77.2	33.5	60.2	83.2	92.3	96.4

レベル	活用	学習状況の判定（学力段階）						
		R1	R2	R3	R4	R5		
形式	S	2	8.0					
	A	6	24.0					
	B	10	40.0					
	基礎	7	28.0	8.7%	22.4%	32.9%	31.4%	4.6%
	選択	7	28.0					
出題	記述	18	72.0					
	自由記述	0	0.0					
	通常	14	56.0					
	完全	11	44.0					
解答	完全	11	44.0					
	複合条件	0	0.0					

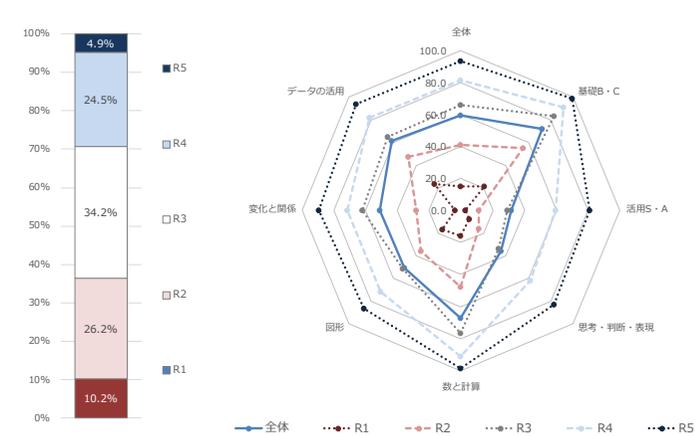
中学校第3学年

設問番号	出題		内容	形式	解答形式	設問レベル	学習評価の観点					指導内容の領域					結果								
	大問	小問					1	2	3	4	5	A	B	C	D	E	(集) 達成率 (%)					無答率 (%)			
連番	大問	小問	学習指導要領に準拠した趣旨	内容	形式	設問レベル	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	数と計算	図形	変化と関係	データの活用	全体	R1	R2	R3	R4	R5	全体	R1	R2	R3	R4	R5
1	1	1	単項式、多項式、同類項について知ること	単項式、多項式、同類項についての正しい文を選ぶ	選択	通常	基礎C	●						80.0	41.0	72.5	85.6	92.8	99.0	0.8	7.1	0.0	0.1	0.0	0.0
2	1	2	同類項をまとめることができること	$2x+7y+3x-5y$ の同類項をまとめる	記述	通常	基礎C	●						82.8	42.4	75.8	90.2	93.6	99.0	1.3	12.4	0.2	0.0	0.0	0.0
3	1	3	多項式の減法の計算ができること	$(5x-9y)-(3x-2y)$ の計算をする	記述	通常	基礎C	●						87.5	43.3	86.1	94.7	94.8	100.0	1.4	13.3	0.2	0.0	0.0	0.0
4	1	4	単項式の乗法の計算ができること	$12xy \times (-3) \times 4y$ の計算をする	記述	通常	基礎B	●						68.4	11.4	51.7	80.9	87.3	96.0	3.5	27.6	2.4	0.1	0.0	0.0
5	1	5	四則混合の計算ができること	$(a+2b)/3 = (a-b)/6$ の計算をする	記述	通常	基礎B	●						58.6	4.8	33.5	70.4	83.5	100.0	3.8	31.9	1.7	0.3	0.0	0.0
6	1	6	四則混合計算を含む式の値を求めることができること	式を簡単にして、二つの文字の値を代入して式の値を求める	記述	通常	基礎B	●						72.7	11.0	58.2	84.6	92.4	97.0	5.4	44.3	2.6	0.6	0.0	0.0
7	1	7	等式を変形できること	$5a-b=7$ を変形してbを求める	記述	通常	基礎B	●						69.5	5.7	44.4	86.2	93.8	99.0	8.0	49.5	9.7	1.0	0.2	0.0
8	1	8	連立二元一次方程式を解くことができること	連立二元一次方程式を $4-x$ $3x-y=16$ を解く	記述	通常	基礎B	●						75.3	12.9	60.0	87.3	95.8	100.0	6.4	46.2	5.8	0.4	0.0	0.0
9	1	9	割合を含んだ数量の関係を表すことができること	割合を含んだ数量の関係を表す式をxとyを使った式に表す	記述	通常	基礎B	●						59.6	1.0	27.0	73.2	92.6	97.0	17.3	70.5	29.6	6.7	0.4	0.0
10	2	1	確率の意味を知ること	確率の意味を誤って表している文を選ぶ	選択	通常	基礎C	●						86.5	53.3	80.1	92.2	96.8	99.0	1.3	10.5	0.6	0.1	0.0	0.0
11	2	2	確率を求めることができること	サイコロの出目の数の確率を求める	記述	通常	基礎C	●						67.8	15.7	51.9	78.3	85.7	98.0	4.4	31.0	3.7	0.6	0.2	0.0
12	3	1	日常生活における事象を確率を基にして、分類整理し考えること	二人がくじを引くときに後方で抽選があるかを考え、説明する	自由記述	確合条件	活用A	●	●					30.4	1.4	9.7	24.4	62.4	84.0	28.0	69.0	40.7	25.2	6.8	0.0
13	3	1	一次関数のグラフについて知ること	一次関数のグラフ( $y=1/2x+2$ )の傾きと軸上の切片を求める	記述	充答	基礎C	●						78.3	10.0	64.1	92.0	98.4	100.0	7.0	48.1	8.0	0.0	0.0	0.0
14	3	2	2点を通る直線の式を求めることができること	2点(1, -1), (5, 7)を通る直線の式を求める	記述	通常	基礎B	●						58.7	1.0	21.4	75.2	91.7	100.0	20.8	77.1	41.1	5.7	0.0	0.0
15	3	3	二元一次方程式のグラフをかくことができること	$2x+y=4$ のグラフをかく	記述	通常	基礎B	●						60.1	4.8	27.1	77.2	86.9	99.0	8.9	44.8	15.2	0.9	0.0	0.0
16	4	1	平行線の性質について知ること	平行線の性質を用いて大きさの等しい角を見付ける	記述	充答	基礎C	●						82.5	31.0	74.3	91.9	96.0	100.0	1.9	18.1	0.4	0.0	0.0	0.0
17	4	2	平行四辺形の性質をもつ図形について知ること	平行四辺形の性質をもつ図形を選ぶ	選択	充答	基礎B	●						75.9	22.4	60.2	85.9	96.6	99.0	1.6	13.8	0.4	0.1	0.0	0.0
18	4	3	三角形の合同を証明することを考えること	三角形の合同を証明する	自由記述	確合条件	活用A	●	●					43.2	0.5	11.9	44.7	82.3	94.0	17.5	72.4	27.7	7.5	1.0	0.0
19	5	1	二等辺三角形の性質を合同条件から考えること	二等辺三角形の性質を三角形の合同条件を使って証明する	選択	通常	基礎B	●						65.9	47.6	55.4	67.4	76.3	98.0	1.5	12.4	0.4	0.3	0.0	0.0
20	5	2	平行四辺形の性質を活用して考えること	平行四辺形の性質を活用して、長さを求めることを考える	選択	充答	活用A	●						38.1	2.9	12.6	32.5	76.1	97.0	4.0	17.1	4.5	3.0	0.2	0.0
21	5	3	等積変形を用いて考えること	等積変形を用いて等しい面積の三角形を見つける	選択	充答	活用A	●	●					45.5	13.8	35.9	38.0	71.0	89.0	8.5	18.6	5.4	10.3	6.4	3.0
22	6		数の性質を文字式を用いて説明を考えること	数の和の性質を文字式を用いて説明する	自由記述	確合条件	活用A	●						35.7	0.5	4.1	29.6	80.1	98.0	27.9	81.9	46.3	20.4	1.6	0.0
23	7		具体的な場面で連立方程式を活用して考えること	連立方程式の活用問題を、変数を明らかにして、答えを求める	自由記述	確合条件	活用A	●	●					51.2	1.4	13.4	58.4	92.8	100.0	18.2	62.9	30.9	10.3	0.8	0.0
24	8		一次関数を活用して、具体的な事象を捉え考えること	一次関数を利用して正エネルギーの消費量が同じになる時刻を考える	記述	充答	活用S	●	●					7.0	0.0	0.4	4.4	10.1	59.0	21.2	49.5	26.4	18.7	8.7	3.0
25	9		直角三角形の合同の証明を考えること	直角三角形の合同を証明する	自由記述	確合条件	活用S	●						2.5	0.0	0.0	0.9	3.2	29.0	37.5	79.5	54.1	34.5	13.3	2.0

■対象教科、校種・学年、出題範囲、対応教科書

教科等	算数・数学科
校種・学年	中学校第3学年
出題範囲	中学校第2学年
対応教科書	教育出版

■学習状況の評定(学力段階)、段階別の平均正答率(%)



設問	数	%	平均正答率(%)					
			全体	R1	R2	R3	R4	R5
25	—	—	59.3	15.2	41.3	65.8	81.3	93.2
17	68.0	—	72.4	21.1	55.5	83.1	91.5	98.8
8	32.0	—	31.7	2.6	11.0	29.1	59.8	81.3
16	64.0	—	72.8	19.5	55.5	84.1	92.4	98.9
9	36.0	—	35.5	7.6	15.9	33.4	61.6	83.1
11	44.0	—	67.4	15.9	47.9	76.5	90.9	98.6
7	28.0	—	50.5	16.9	35.8	51.6	71.7	86.6
4	16.0	—	51.0	3.9	28.3	62.2	71.8	89.5
3	12.0	—	61.6	23.5	47.2	65.0	81.6	93.7

レベル	活用		学習状況の評定(学力段階)	
	S	2	R1	R2
基礎	A	6	24.0	—
	B	11	44.0	—
出題	選択	6	24.0	—
	記述	14	56.0	—
	自由記述	5	20.0	—
	通常	14	56.0	—
解答	充答	6	24.0	—
	確合条件	5	20.0	—

学習状況の評定(学力段階)				
R1	R2	R3	R4	R5
10.2%	26.2%	34.2%	24.5%	4.9%



## Ⅲ—3 外国語

### 特定の課題に対する調査 教科等別結果



# IV 学習・生活についての アンケート

## 意識・実態調査 結果

## 1 観点と質問項目の対応、結果

設問番号	観点	内容(趣旨)
2 26	集合的(社会) 効力感 (相互承認(触発)の感度③)	自分の学級(クラス)は、誰にとっても居心地がよくなるよう、いろいろなルールやきまりを話し合って決めることができる。
1 21		学校での生活は、自分たちが協力することで、自分にとってもみんなにとってもよりよいものにできると思う。
2 22		今住んでいる地域は、自分たちが協力することにより、そこで生活する全ての人にとってよりよいものにできると思う。
1 16		自分が積極的に関わることで、日本や世界で問題になっていることは、少しでもよい方向に進むと思う。
2 1	学校生活 の充実度	学校の生活が楽しい(小学校)／充実している(中学校)。
2 26		自分の学級(クラス)は、誰にとっても居心地がよくなるよう、いろいろなルールやきまりを話し合って決めることができる。
2 21		自分の学級(クラス)では、机や本棚の置き方、スペースやコーナーの作り方、掲示の仕方などの教室環境を皆で話し合って決めている。
1 21		学校での生活は、自分たちが協力することで、自分にとってもみんなにとってもより良いものにできる。
2 24	自己効力感 (自由の感度)	自分は、努力すれば、たいていのできるようになると思う。
2 13		自分は、最後までやり抜くなど根気強いほうだと思う。
2 6		ものごとを最後までやりとげて、嬉しかったことがある。
2 4		自分が頑張ったからよい結果が出たんだと思うことがよくある。
2 2		失敗の経験を生かすことができる。
2 10		難しいことに挑戦することは、楽しいことだと思う。
1 22	他者への受容 (相互承認の感度①)	人の気持ちを分かろうとしている。
1 18		人の話は最後まで、きちんと聞いている。
1 5		自分と違う意見や考え、気持ちも大切にできている。
1 20	他者からの受容 (相互承認の感度②)	自分の考えや気持ちを理解してくれる友達がいる。
1 11		家族や保護者は自分のことを気にかけてくれていると思う。
1 15		学校の先生は、自分のことを認めてくれていると思う。
1 2		地域の人たちが、あなたの生活を応援したり支えてくれたりしていると感じている。
1 9	自己の受容 (自己承認の感度) (自己肯定感)	今の自分に満足している。
1 4		今の自分に自信がある。
1 12		今の自分を「好き」と言える。
1 7	探究の情動 (内発的な学習意欲)	普段から、いろいろなことに「ふしぎだな」「なぜだろう」と感じることが多い。
1 24		普段から、ほんとうに「よいこと」や「わるいこと」は何なのかと考えることが多い。
2 17		普段から、形や色、音などに触れて「きれいだな」「美しいな」と感じる人が多い。
3 7	主体的な学び (内発的な学習意欲)	興味をもったことは、自分から進んで学んでいる。
2 23		分からないことは、自分から人に質問したり、調べたりしている。
2 5		勉強していて、面白い、楽しいと思うことがある。
2 18		自分は、新しいことが分かったり身に付いたりすると、次の内容や新しい内容をもっと学ぼうとする。
2 8	時間的展望	将来実現したい夢や目標がある。
2 14		これから先、どのように生きていきたいかを考えている。
2 11		今学んでいることは、いずれ仕事や生活の中で役に立つと思う。
1 14	道徳的実践力	他の人や社会の役に立つ人間になりたいと思う。
1 10		決まりを破ったり、いじめをしたりしている友達がいたら、自分から進んで注意している。
1 23		お年寄りや障害のある人など、困っている人がいたら、自分から進んで助けている。
2 25		学校や地域・社会の人々のために、進んでボランティア活動をしている。
1 17		自分は、努力すれば、いろいろな人とよい人間関係をつくっていくことができると思う。
1 3	生命尊重体験	学校の授業以外で、小さい子どもをおんぶしたりだっこしたり、遊んであげたりしたことがある。
1 6		学校の授業以外で、生き物を飼育したことがある。
1 19		学校の授業以外で、花や野菜などの植物を育てたことがある。

※肯定率(全回答に占める肯定的な回答をした児童・生徒の割合、%)

小学校 総合	中学校 総合	小学校				中学校			No.	
		第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	第1学年	第2学年	第3学年		
72.6	70.9				72.6			70.9	26	2
86.5	87.7				86.5			87.7	22	1
69.6	64.4				69.6			64.4	22	2
60.1	47.4				60.1			47.4	16	1
83.4	83.1				83.4			83.1	1	2
72.6	70.9				72.6			70.9	26	2
54.8	44.4				54.8			44.4	21	2
86.5	87.7				86.5			87.7	21	1
75.6	73.1				75.6			73.1	24	2
60.0	52.9				60.0			52.9	13	2
90.8	89.4				90.8			89.4	6	2
75.2	67.4				75.2			67.4	4	2
80.7	80.3				80.7			80.3	2	2
71.6	69.0				71.6			69.0	10	2
90.9	93.2				90.9			93.2	22	1
84.3	85.2				84.3			85.2	18	1
84.8	90.2				84.8			90.2	5	1
89.8	90.8				89.8			90.8	20	1
92.4	91.7				92.4			91.7	11	1
78.8	78.7				78.8			78.7	15	1
75.0	71.7				75.0			71.7	2	1
49.2	33.7				49.2			33.7	9	1
56.5	41.6				56.5			41.6	4	1
56.1	45.3				56.1			45.3	12	1
78.7	75.4				78.7			75.4	7	1
65.7	70.1				65.7			70.1	24	1
79.6	82.8				79.6			82.8	17	2
81.6	85.2				81.6			85.2	7	3
83.3	86.0				83.3			86.0	23	2
72.2	64.2				72.2			64.2	5	2
65.5	63.1				65.5			63.1	18	2
79.7	67.0				79.7			67.0	8	2
72.9	73.9				72.9			73.9	14	2
85.4	72.7				85.4			72.7	11	2
90.2	89.9				90.2			89.9	14	1
63.4	56.2				63.4			56.2	10	1
58.0	64.3				58.0			64.3	23	1
25.9	28.0				25.9			28.0	25	2
84.4	85.2				84.4			85.2	17	1
70.2	65.6				70.2			65.6	3	1
77.1	79.6				77.1			79.6	6	1
80.8	77.4				80.8			77.4	19	1

設問番号	観点	内容(趣旨)
1	1	国際社会への 関心・関わり
1	8	
1	16	
1	13	住んでいる 地域への 関心・関わり
2	12	
2	3	
2	22	
2	7	基本的な 生活習慣
2	19	
2	15	
2	9	
3	22	学習成果の実感
3	11	
3	9	学び方 (学習方略一般)
3	2	
3	3	
3	4	
3	5	
3	1	
2	16	個別の学び (学びの個別化)
3	23	
3	8	
3	19	
3	15	
3	18	
3	16	
3	24	探究の学び (学びの探究化)
3	17	
3	20	
3	6	協同の学び (学びの協同化)
2	20	
3	10	
3	13	
3	14	
3	21	
3	12	
4		読書冊数
6	1	学習時間
6	2	
6	3	
6	4	
5		部活動の所属状況

※ 「読書冊数」は、「全く読まない=0冊」「1~2冊=2冊」~「21冊以上=25冊」と換算して算出

※肯定率(全回答に占める肯定的な回答をした児童・生徒の割合、%)

小学校 総合	中学校 総合	小学校				中学校			No.	
		第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	第1学年	第2学年	第3学年		
81.2	81.3				81.2			81.3	1	1
62.1	89.5				62.1			89.5	8	1
60.1	47.4				60.1			47.4	16	1
81.2	81.1				81.2			81.1	13	1
85.7	80.4				85.7			80.4	12	2
37.6	27.9				37.6			27.9	3	2
69.6	64.4				69.6			64.4	22	2
93.1	89.5				93.1			89.5	7	2
64.1	57.6				64.1			57.6	19	2
62.7	62.1				62.7			62.1	15	2
78.2	77.8				78.2			77.8	9	2
81.6	86.4				81.6			86.4	22	3
44.7	35.8				44.7			35.8	11	3
62.7	55.0				62.7			55.0	9	3
75.5	75.7				75.5			75.7	2	3
68.4	59.6				68.4			59.6	3	3
68.0	65.1				68.0			65.1	4	3
68.7	71.9				68.7			71.9	5	3
65.3	72.6				65.3			72.6	1	3
75.6	72.2				75.6			72.2	16	2
81.7	83.0				81.7			83.0	23	3
62.1	53.9				62.1			53.9	8	3
76.3	70.2				76.3			70.2	19	3
72.9	77.7				72.9			77.7	15	3
40.1	45.6				40.1			45.6	18	3
11.5	18.4				11.5			18.4	16	3
57.6	48.8				57.6			48.8	24	3
49.4	47.7				49.4			47.7	17	3
59.1	50.6				59.1			50.6	20	3
58.7	55.3				58.7			55.3	6	3
60.8	56.0				60.8			56.0	20	2
53.6	49.9				53.6			49.9	10	3
77.4	83.7				77.4			83.7	13	3
72.3	75.7				72.3			75.7	14	3
80.8	85.4				80.8			85.4	21	3
69.4	63.5				69.4			63.5	12	3
9.4冊	4.3冊				9.4冊			4.3冊		4
108.6分	97.3分				108.6分			97.3分	1	6
110.3分	120.9分				110.3分			120.9分	2	6
112.0分	121.7分				112.0分			121.7分	3	6
86.2分	79.9分				86.2分			79.9分	4	6
81.2	86.1							86.1		5

※ 「学習時間」は、「しなかった=0分」～「3時間以上=180分」と換算して算出

## 2 学習活動に関する質問項目の結果

設問番号	観点	質問項目	小学校 第6学年	中学校 第3学年
7 1	学びの 構造転換 (国語科)	解決を目指す課題や問題、めあてを自分で決めること。	43.6	37.7
7 2		課題解決のための計画を自分で立てること。	50.1	40.7
7 3		課題解決のための方法（考え方、やり方、道具、場所など）を自分で選ぶこと。	59.3	53.9
7 4		自分が納得するまで課題解決を追究すること。	53.5	52.6
7 5		必要な時に、必要な人と協力すること。	74.4	75.8

※学年ごとに設問構成が異なるため、設問番号は中学校第3学年のものを表示

※全て調査実施の前学年の「学びの構造転換」に関する質問項目

※肯定率(全回答に占める肯定的な回答をした児童・生徒の割合、%)

設問番号	観点	質問項目	小学校 第6学年	中学校 第3学年
8 1	学びの 構造転換 (算数 ・数学科)	解決を目指す課題や問題、めあてを自分で決めること。	39.7	34.5
8 2		課題解決のための計画を自分で立てること。	49.3	41.5
8 3		課題解決のための方法(考え方、やり方、道具、場所など)を自分で選ぶこと。	64.6	60.9
8 4		自分が納得するまで課題解決を追究すること。	56.8	61.8
8 5		必要な時に、必要な人と協力すること。	73.4	75.5

※学年ごとに設問構成が異なるため、設問番号は中学校第3学年のものを表示

設問番号	観点	質問項目	小学校 第6学年	中学校 第3学年
10 1	学びの 構造転換 (外国語)	解決を目指す課題や問題、めあてを自分で決めること。	32.1	35.2
10 2		課題解決のための計画を自分で立てること。	35.3	38.8
10 3		課題解決のための方法（考え方、やり方、道具、場所など）を自分で選ぶこと。	42.4	48.8
10 4		自分が納得するまで課題解決を追究すること。	41.8	52.7
10 5		必要な時に、必要な人と協力すること。	68.6	75.0
10 6		単語とその絵が書かれたカードを見ながら発音したり、音声を聞いてその単語が書かれたカードを選んだりすること。	72.2	
10 7	コミュニケー ション活動	まとまった文を聞いたり読んだりして、その内容について英語で意見を述べ合うこと。		58.6
10 8		まとまった文を読んだ後、それに対して感想を述べたり賛成・反対などの意見を言ったりするために、文の要旨を捉えること。		57.0
10 9		身近な出来事や体験について、自分の考えや気持ちを、文と文のつながりに注意して、複数（2文以上）の文で書くこと。		65.4
10 10		多様なものの見方や考え方を理解したり、尊重したりするために、外国と日本の言葉や文化を比較したり、自分の考えや行動に当てはめたりすること。		60.5

※学年ごとに設問構成が異なるため、設問番号は中学校第3学年のものを表示

※肯定率(全回答に占める肯定的な回答をした児童・生徒の割合、%)

設問番号	観点	質問項目	小学校 第6学年	中学校 第3学年
11 1	ICT 利活用	学校の授業で、電子黒板やインタラクティブボード、パソコンなどを使い、授業の内容と関係する動画や映像を見たり、音声を聞いたりすること。	88.8	92.1
11 2		学校の授業で、パソコンなどを一人一台使い、幾つかの課題から自分の学習状況に合ったものを選んで解決すること。	86.3	78.2
11 3		学校の授業で、電子黒板やインタラクティブボード、パソコンなどを使い、自分の考えや気持ちを説明したり、他の人と伝え合ったりすること。	84.4	83.3
11 4		学校の授業で、パソコンなどを使い、観察・調査したデータを使って図やグラフを作成したり、レポートをまとめたりすること。	75.1	76.5
11 5		学校の授業で、ウェブページをみたり、インターネットやウェブメールを使って他の人とやり取りしたりするときの注意点を知ること。	78.2	73.3
11 6		学校の授業で、自分の課題解決に必要な時に、自由にパソコンを使うこと。	77.8	74.7

※学年ごとに設問構成が異なるため、設問番号は中学校第3学年のものを表示



# V 資料

※各教科・学年の調査用紙及び回答用紙、解答 pp. 42-. (ウェブでは非公開)



杉並区特定の課題に対する調査、  
意識・実態調査報告書

令和4年度

令和4年11月発行

編集・発行

杉並区教育委員会

杉並区立済美教育センター

〒166-0013 杉並区堀ノ内二丁目5番26号

電話 03(3311)0021

登録印刷物番号

04-0088



